

Que Será, Será



タージマハール 写真撮影：高子 忠雄

パニック障害は不安の病である。理由のない不安や、理由があってもその程度に見合わないほど強い不安が生じる病気である。その病的不安の直接的で具体的な原因や理由は表面的には認められない。しかし、患者さんの生活史を垣間見るうちに、「ああこの患者さんはこんな大変な状況で長いこと苦しんできたのだ」となんとなく納得できる。このように多くの事例を観察していると、パニック障害の発症にはストレスが大きな役割を果たしていることが実感される。しかし、なかにはさほどストレスが有った様には思われない事例にも時に遭遇する。このことは、病気は外因と内因との相互作用で発症すると言う精神医学の旧来から



パニック障害発症の周辺

医療法人 和楽会 理事長 貝谷久宣



の考え方で説明される(図参照)。外因が強ければ内因はさほどなくとも発病し、反対に内因が非常に強ければ外因なしでも発病すると言う相互関係であります。外因とは一般的には、環境的な要因とか外傷や身体的病気を言い、内因は体質または遺伝的素因と

